

News Release

2012年1月25日

転職サービス「DODA(デューダ)」調べ  
2011年10月-12月 転職求人倍率  
12月は1.36倍。2008年1月以降最高値に

株式会社インテリジェンス(本社:東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員:高橋広敏)が運営する転職サービス「DODA(デューダ)」<<http://doda.jp/>>は、2011年10月から12月の転職求人倍率をまとめた「DODA 転職求人倍率レポート」2012年1月号を発売しましたのでお知らせします。

転職求人倍率は、ホワイトカラー層を中心とした転職マーケットにおける需給バランスを表すもので、DODA 転職支援サービス登録者(転職希望者)1名に対して、中途採用の求人が何件あるかを算出した数値になります。

※算出式: 転職求人倍率=求人数(採用予定人員)÷転職希望者数

■ 2011年10月-12月の概況

2011年12月の転職求人倍率は、調査を開始した2008年1月以降で最も高い1.36倍となり、リーマン・ショック以前の水準まで回復したと言えます。東日本大震災後にやや減少した求人は、堅調に回復し高止まりを維持。一方、10月入社を目指し7月~9月に活動していた転職者が落ち着いたことで、2011年10月~12月の求人倍率は右肩上がりに上昇しました。前年比では、転職希望者数が117%に対して求人数は126%。求人数の増加が上回っており、1年前より転職者の売り手市場の傾向が強まっていることがうかがえます。

■ 業種別の転職求人倍率

	2011年					
	10月		11月		12月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.24	▲0.01	1.29	0.05	1.36	0.07
IT/通信/インターネット	1.63	▲0.02	1.69	0.06	1.84	0.15
メディア	0.80	0.06	0.78	▲0.02	0.89	0.11
金融	0.76	▲0.04	0.79	0.03	0.82	0.03
メディカル	3.18	0.24	3.15	▲0.03	3.21	0.06
メーカー	1.23	▲0.03	1.26	0.03	1.30	0.04
商社/流通	0.31	▲0.02	0.33	0.02	0.35	0.02
小売/外食	0.62	0.01	0.74	0.12	0.76	0.02
サービス	1.21	0.02	1.28	0.07	1.40	0.12
その他	0.47	0.00	0.47	0.00	0.53	0.06

■ 職種別の転職求人倍率

	2011年					
	10月		11月		12月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.24	▲0.01	1.29	0.05	1.36	0.07
営業系	1.12	▲0.01	1.11	▲0.01	1.20	0.09
企画・事務系	0.75	▲0.03	0.77	0.02	0.81	0.04
技術系(IT/通信)	1.78	▲0.05	1.77	▲0.01	1.86	0.09
技術系(電気/電子/機械)	2.18	0.03	2.39	0.21	2.43	0.04
技術系(メディカル)	3.22	0.29	3.39	0.17	3.42	0.03
技術系(化学/食品)	1.05	▲0.05	1.11	0.06	1.11	0.00
技術系(建築/土木)	1.50	0.01	1.50	0.00	1.54	0.04
専門職系(コンサルタント/金融/不動産)	1.09	0.07	1.19	0.10	1.37	0.18
クリエイティブ系	1.03	0.05	1.12	0.09	1.34	0.22
販売・サービス系	0.52	0.00	0.58	0.06	0.63	0.05
事務・アシスタント系	0.75	0.02	0.72	▲0.03	0.84	0.12

※ より詳細な分析や DODA 編集長の解説が掲載されている「DODA 転職求人倍率レポート」は、DODA サイトでご覧いただけます。[http://saiyo.inte.co.jp/column/report\\_201201.html](http://saiyo.inte.co.jp/column/report_201201.html)

※ 調査は2008年より行っております。過去のデータをご覧になりたい場合は、広報部までお問い合わせください。

本件に関するお問合せ先  
<http://www.inte.co.jp/corporate/other/inquiry.html>

# DODA 転職求人倍率レポート

～業種別・職種別に読み解く転職市場動向～

株式会社インテリジェンス（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：高橋広敏）が運営する転職サービス「DODA（デューダ）」<<http://doda.jp/>>は、業種別・職種別の求人倍率を算出し、「DODA 転職求人倍率レポート」として発表しています。このデータは、9業種ごと、11職種ごとに求人倍率を算出しており、転職マーケットにおける需給トレンドなどを表すものです。

2012年  
1月号  
2012年1月23発行

## 2011年12月の転職求人倍率は1.36倍。2008年1月以降最高値に

2011年12月の転職求人倍率は、調査を開始した2008年1月以降で最も高い1.36倍となり、リーマン・ショック以前の水準まで回復したと言えます。東日本大震災後にやや減少した求人は、堅調に回復し高止まりを維持。一方、10月入社を目指し7月～9月に活動していた転職者が落ち着いたことで、2011年10月～12月の求人倍率は右肩上がりに上昇しました。前年比では、転職希望者数が117%に対して求人数は126%。求人数の増加が上回っており、1年前より転職者の売り手市場の傾向が強まっていることがうかがえます。

売り手市場の傾向が強い業種は、未曾有の活況がピークを迎えつつある「メディカル」や、需要の高まるスマートフォンアプリ、ソーシャルネットワーク分野が牽引する「IT／通信／インターネット」、「メディア」。そのほかに、最近の傾向として「サービス」業界の採用ニーズが高まりつつあります。全国的にニーズの高まる耐震補強分野や、震災復興事業を支える建築・不動産分野では、50～100名規模の求人が発生。また、メーカーでは固定費削減や加速する製品サイクルに対応するべくアウトソーサーの活用が活発化しており、多くの製造系アウトソーシング企業が採用を強化し始めています。

2012年1月～3月の転職マーケットについては、2011年度の採用目標人数を確保しようとする企業と、4月入社を目指して積極的に活動する転職者により、人材の流動が活発化すると予想されます。

## 業種別の転職市場動向(全国)

12月は、全業種において前月より転職求人倍率が上昇。上昇率が最も高いのは、「IT／通信／インターネット(+0.15)」、次いで「サービス(+0.12)」、「メディア(+0.11)」が続きます。また、求人倍率が最も高いのは、「メディカル」の3.21倍、次いで「IT／通信／インターネット」(1.84倍)、「サービス」(1.40倍)となりました。

業種	2011年					
	10月		11月		12月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.24	▲0.01	1.29	0.05	1.36	0.07
IT/通信/インターネット	1.63	▲0.02	1.69	0.06	1.84	0.15
メディア	0.80	0.06	0.78	▲0.02	0.89	0.11
金融	0.76	▲0.04	0.79	0.03	0.82	0.03
メディカル	3.18	0.24	3.15	▲0.03	3.21	0.06
メーカー	1.23	▲0.03	1.26	0.03	1.30	0.04
商社/流通	0.31	▲0.02	0.33	0.02	0.35	0.02
小売/外食	0.62	0.01	0.74	0.12	0.76	0.02
サービス	1.21	0.02	1.28	0.07	1.40	0.12
その他	0.47	0.00	0.47	0.00	0.53	0.06

※「転職求人倍率」は小数第三位を四捨五入。また、「転職求人倍率」の除数となる転職希望者数の業種(職種)については、希望業種(職種)ではなく近隣の経験業種(職種)に準じている。

## 職種別の転職市場動向(全国)

12月は「技術系(メディカル)」が3.42倍と最も高く、次いで「技術系(電気/電子/機械)」(2.43倍)、「技術系(IT/通信)」(1.86倍)で、上位3職種は6カ月連続で変動が見られません。特に転職求人倍率が大きく上昇しているのは、「クリエイティブ系」(+0.22)、「専門職(コンサルタント/金融/不動産)」(0.18)の2職種でした。

職種	職種別の転職求人倍率					
	2011年					
	10月		11月		12月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.24	▲0.01	1.29	0.05	1.36	0.07
営業系	1.12	▲0.01	1.11	▲0.01	1.20	0.09
企画・事務系	0.75	▲0.03	0.77	0.02	0.81	0.04
技術系(IT/通信)	1.78	▲0.05	1.77	▲0.01	1.86	0.09
技術系(電気/電子/機械)	2.18	0.03	2.39	0.21	2.43	0.04
技術系(メディカル)	3.22	0.29	3.39	0.17	3.42	0.03
技術系(化学/食品)	1.05	▲0.05	1.11	0.06	1.11	0.00
技術系(建築/土木)	1.50	0.01	1.50	0.00	1.54	0.04
専門職(コンサルタント/金融/不動産)	1.09	0.07	1.19	0.10	1.37	0.18
クリエイティブ系	1.03	0.05	1.12	0.09	1.34	0.22
販売・サービス系	0.52	0.00	0.58	0.06	0.63	0.05
事務・アシスタント系	0.75	0.02	0.72	▲0.03	0.84	0.12

※「転職求人倍率」は小数第三位を四捨五入。また、「転職求人倍率」の除数となる転職希望者数の業種(職種)については、希望業種(職種)ではなく直近の経験業種(職種)に準じている。

## D ODA 編集長の解説

2011年10月～12月の求人は、業績好調により採用ニーズが高まる企業と、新卒採用が始まる12月に向けて徐々に中途採用を終息させる企業の二極化が特徴的でした。前者はメディカル、IT/通信/インターネット、建築・不動産、一部の中小メーカーなど、後者は金融、商社、大手メーカーなどが中心です。一方、転職者の活動が落ち着いた背景には、現職企業が業績回復のため多忙となり、転職活動に時間が割けないケースが見られます。また、給与や冬のボーナス支給額がリーマン・ショック以前の水準に戻ったため転職を留まるなど、新たに転職を考えるきっかけが少なかったことも影響しているのでしょう。

関東では、未経験者や第二新卒を採用する企業が増加。背景として、リーマン・ショック以降、新卒採用を控えたことによる若手人材の不足や、挑戦や変革を狙う企業がポテンシャルを重視した採用に転じたことが挙げられます。また、即戦力採用を続けていた企業の中には経験者を上手く採用できず、ターゲットを若手のハイポテンシャル層に切り替える動きも見られます。

2012年度の転職マーケットは、円高、タイ洪水の影響でメーカーの採用が縮小。一方、日本の産業構造の変化に伴う情報・サービス業の拡大により、IT/通信/インターネットやサービス分野の求人はさらに増えると予想されます。また、海外展開の動きを加速させる企業が増える中、グローバル人材の採用ニーズがますます高まることは必然です。グローバル人材として企業に重宝されるのは、「語学力」に加え、「特定分野における高い専門性」、「経験・スキルを新たなステージで活かす応用力」などを兼ね備えていること。優秀な人材を確保するために、外国人の採用を積極的に行う企業も見られ、転職希望者は今後、国内だけでなく海外の求職者と競うことにもなるでしょう。

団塊世代の一時退職によるベテラン人材の不足が懸念される「2012年問題」においては、若手層の厳選採用によって補う企業が多く、大きな雇用の創出には繋がらないと考えられます。(DODA 編集長 美濃啓貴)

転職求人倍率の定義…「転職求人倍率」は、DODA 転職支援サービス登録者1名に対して、中途採用の求人が何件あるかを算出した数値。算出式は以下の通りとなる。

$$[ \text{転職求人倍率} = \text{求人数} (\text{採用予定人員}) \div \text{転職希望者数} ]$$

【求人数】前月からの繰越求人数(採用予定人員)と、当月中に新たに登録された新規求人数(採用予定人員)を合算した数で算出。

【転職希望者数】前月からDODA 転職支援サービスに継続登録している繰越登録者数と、当月中に新たに登録した新規登録者数を合算した数で算出。

ただし、繰越登録者数に関しては、直近半年以内の登録者数を採用している。

## 2011年12月、関西エリアの転職求人倍率は1.41倍。5カ月連続の上昇。

## ■DODA関西支社ゼネラルマネジャーの解説

2011年12月、関西エリアの転職求人倍率は1.41倍となり、5カ月連続の上昇となりました。この10～12月に求人増加となっていたのは、コンビニなどの小売業、飲食チェーン店、関西地場の中堅製造業、不動産、保険の領域です。一方で、転職希望者数は秋から年末にかけて減少したため、転職求人倍率は右肩上がりになりました。

2011年の転職マーケットを振り返ると、「復興」がキーワードになっていたと実感しています。2008年のリーマン・ショック、それに加えて2011年3月の大震災を乗り越え、転職マーケットが一気に活気づいたのが2011年の夏以降でした。大震災後は、転職に関する個人側の意識の変化もありました。それは、「家族の近くに住むために転職したい」、「家族を安心させられるような会社に転職したい」というニーズが増えた点です。

2012年は、関西の大手製造業を中心に、中途採用数を2011年度の8～9割程度に絞る予定という声が多く、やや消極的な滑り出しとなりそうです。次に新規の求人数が増加するのは、4～6月のタイミングになるでしょう。年間の中途採用計画に基づいた求人そのタイミングでまとめて公開するためです。2012年の転職マーケットキーワードを挙げるとすれば、「グローバル」と「より求められる専門性」です。「グローバル」に関しては、海外営業、新興国(東南アジア、南米エリア)のビジネスディベロップメント、IFRS対応の経理、グローバル人事、海外出店を計画している小売/外食企業の店長職、現地工場に対する生産技術職のニーズが高まりそうです。また、「より求められる専門性」というのは、2012年はさらに専門性を問われる求人が増加する見通しということです。特に製造系技術職(機械設計、電気回路設計、制御設計)や、メディカル系技術職の採用ニーズは引き続き高止まりするでしょう。(DODA関西支社ゼネラルマネジャー 須藤芳紀)

## ■業種別の転職市場動向(関西エリア)

業種別の転職求人倍率を見ると、12月は「メディカル」が4.62倍と最も高く、次いで「サービス」(1.50倍)、「小売/外食」(1.33倍)となった。

業種	2011年					
	10月		11月		12月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.32	0.03	1.37	0.05	1.41	0.04
IT/通信/インターネット	0.87	0.02	1.01	0.14	1.09	0.08
メディア	0.26	▲0.04	0.29	0.03	0.38	0.09
金融	0.86	0.03	0.92	0.06	0.98	0.06
メディカル	4.93	0.31	4.60	▲0.33	4.62	0.02
メーカー	1.23	▲0.01	1.23	0.00	1.27	0.04
商社/流通	0.23	0.01	0.26	0.03	0.27	0.01
小売/外食	1.16	0.06	1.44	0.28	1.33	▲0.11
サービス	1.33	0.06	1.43	0.10	1.50	0.07
その他	0.27	0.02	0.24	▲0.03	0.28	0.04

## ■職種別の転職市場動向(関西エリア)

職種別の転職求人倍率を見ると、12月は「技術系(メディカル)」が4.15倍と最も高く、次いで、「技術系(電気/電子/機械)」(2.54倍)、「技術系(建築/土木)」(1.60倍)となった。

職種	2011年					
	10月		11月		12月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.32	0.03	1.37	0.05	1.41	0.04
営業系	1.60	0.00	1.54	▲0.06	1.54	0.00
企画・事務系	0.62	0.00	0.66	0.04	0.67	0.01
技術系(IT/通信)	0.80	0.01	0.90	0.10	0.88	▲0.02
技術系(電気/電子/機械)	2.24	0.09	2.44	0.20	2.54	0.10
技術系(メディカル)	4.13	0.29	4.46	0.33	4.15	▲0.31
技術系(化学/食品)	0.99	0.00	1.04	0.05	1.05	0.01
技術系(建築/土木)	1.54	0.18	1.62	0.08	1.60	▲0.02
専門職系(コンサルタント/金融/不動産)	0.68	0.13	0.65	▲0.03	0.80	0.15
クリエイティブ系	0.60	▲0.01	0.62	0.02	0.91	0.29
販売・サービス系	0.71	0.04	0.82	0.11	0.87	0.05
事務・アシスタント系	0.85	0.02	0.90	0.05	1.14	0.24

※「転職求人倍率」は小数第三位を四捨五入。また、「転職求人倍率」の除数となる転職希望者数の業種については、希望業種ではなく直近の経験業種に準じている。

※想定勤務地に関西エリアが含まれる求人、および、希望勤務地に関西エリアが含まれる転職希望者が集計対象。(大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県)

2011年12月、中部エリアの転職求人倍率は1.67倍。2012年は航空機、自動車、建築系が採用増加に。

### ■DODA中部支社ゼネラルマネジャーの解説

2011年12月、中部エリアの転職求人倍率は1.67倍となり、5カ月連続の上昇となりました。「営業職」、「企画・事務職」などの文系職種の転職求人倍率は横ばい傾向でしたが、一方で「技術系（IT／通信）」・「技術系（電気／電子／機械）」・「技術系（建築／土木）」の転職求人倍率が上昇しました。特に、自動車製造関連（ティアワンと呼ばれる1次請け部品メーカー）と航空機製造関連の採用ニーズが堅調です。国内だけでなく世界の完成車メーカー各社と取引のあるティアワンは業績好調であり、人材獲得に奔走しています。

2012年の転職マーケットを見通すと、建築系職種の採用ニーズが高まりそうです。新東名高速道路の建設、名古屋駅前の再開発など、大型開発が続き、また、2011年3月の大震災以降の復興需要も引き続き顕在化しているためです。そのほか、航空機関連と、ティアワンを中心に自動車関連の求人も堅調に推移するでしょう。

2012年は、企業にとって人材を採用するためのツールが変わる年になりそうです。現在は、採用活動においてFacebookやLinkedInなどのSNSを活用しているのは関東の先進的な企業がほとんどですが、中部エリアの企業は、関東や関西から優秀な人材を獲得しようと考えてるのであればSNS活用にぜひ挑戦してほしいと思います。求人要件を満足する人材、さらに期待を上回るような人材を採用するために、求人広告などの既存の採用手法と併用する企業が増えるでしょう。また、2012年は採用ターゲットもこれまでと変わると推測されます。各社、新卒・中途採用者ともに外国籍社員の割合が高まるでしょうし、また、技術職採用もより一層スキルマッチ募集にシフトしていきそうです。（DODA中部支社ゼネラルマネジャー 木村浩明）

### ■業種別の転職市場動向(中部エリア)

業種別の転職求人倍率を見ると、12月は「メディカル」が5.50倍と最も高く、次に「サービス」と「小売／外食」（1.96倍）となった。

業種	業種別の転職求人倍率					
	2011年					
	10月		11月		12月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.59	▲0.01	1.63	0.04	1.67	0.04
IT／通信／インターネット	0.71	0.01	0.87	0.16	0.86	▲0.01
メディア	0.24	0.00	0.25	0.01	0.36	0.11
金融	1.24	▲0.09	1.40	0.16	1.49	0.09
メディカル	5.93	0.14	5.63	▲0.30	5.50	▲0.13
メーカー	1.41	0.01	1.42	0.01	1.49	0.07
商社／流通	0.33	0.00	0.35	0.02	0.38	0.03
小売／外食	1.62	0.01	1.94	0.32	1.96	0.02
サービス	1.80	0.02	1.80	0.00	1.96	0.16
その他	0.45	▲0.04	0.49	0.04	0.43	▲0.06

### ■職種別の転職市場動向(中部エリア)

職種別の転職求人倍率を見ると、12月は「技術系（メディカル）」が3.85倍と最も高く、次いで、「技術系（電気／電子／機械）」（3.19倍）、「技術系（建築／土木）」（2.17倍）となった。

職種	職種別の転職求人倍率					
	2011年					
	10月		11月		12月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.59	▲0.01	1.63	0.04	1.67	0.04
営業系	2.23	▲0.08	2.11	▲0.12	2.13	0.02
企画・事務系	0.58	▲0.07	0.60	0.02	0.61	0.01
技術系（IT／通信）	0.54	0.03	0.62	0.08	0.66	0.04
技術系（電気／電子／機械）	2.86	0.00	3.00	0.14	3.19	0.19
技術系（メディカル）	3.72	0.06	4.09	0.37	3.85	▲0.24
技術系（化学／食品）	0.83	▲0.01	0.95	0.12	0.92	▲0.03
技術系（建築／土木）	2.02	0.06	1.99	▲0.03	2.17	0.18
専門職系（コンサルタント／金融／不動産）	0.81	0.17	0.73	▲0.08	0.92	0.19
クリエイティブ系	0.40	0.01	0.41	0.01	0.63	0.22
販売・サービス系	1.04	0.04	1.20	0.16	1.29	0.09
事務・アシスタント系	0.82	0.22	1.04	0.22	1.09	0.05

※「転職求人倍率」は小数第三位を四捨五入。また、「転職求人倍率」の除数となる転職希望者数の業種については、希望業種ではなく直近の経験業種に準じている。

※想定勤務地に中部エリアが含まれる求人、および、希望勤務地に中部エリアが含まれる転職希望者が集計対象。（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）